

**「教育費や奨学金制度に関するアンケート」
報告書
(中間集約・速報版)**

2016年11月

 **日本生活協同組合連合会**

総合運営本部 政策企画部

調査の概要

1. 調査の目的

近年、世帯収入が減少傾向にある一方で、子どもにかかる教育費は増加傾向にあり、大学生の約半数が何らかの奨学金を利用していると言われています。また最近、奨学金をめぐる、返済が難しいために自己破産する、奨学金の返済があるために結婚をためらうなど、社会的な問題にもなっています。

日本生協連では、子どもを持つ人が多い生協の組合員に対し、家庭における教育費負担への意識、現在の奨学金制度への理解、意識、要望を明らかにすることで、社会的に問題提起をする基礎資料とするべく「教育費や奨学金制度に関するアンケート」を実施しました。

2. 実施方法

Web上に「教育費や奨学金制度に関するアンケート」サイト（スマートフォン、パソコン両方に対応）を設置し、インターネット調査で行いました。

なお、今回の報告書は、9月21日～10月23日までに回答いただいたデータを分析しました。

3. 調査対象

(1) 県連・会員生協の学習活動と結びつけた調査

全国の生協において、組合員の学習活動などとあわせて、組合員向け諸会議資料やメールマガジンなどで、ご協力をお願いしました。

(2) インターネットモニターによる調査

上記呼びかけとともに、日本生協連のインターネットモニター（全国約4,000名）に、Eメール配信し、ご協力をお願いしました。

4. 回答状況

9月21日～10月23日までに、2,713件の回答をいただき、そのうちの2,675件を有効回答とし、分析を行いました。

5. 今後の予定

調査の確定版は、9月21日～11月30日までに回答いただいた分をとりまとめ、12月に報告します。

調査結果の特徴

1. 自由記入欄には、回答者 2,675 人のうち 1,433 人（回答者の 53.6%）が何らかの意見・考えを記入しており、教育費や奨学金制度のあり方に高い関心があることがうかがえる。代表的な意見は以下のとおり【Q21】
 - ・現在、夫婦で合わせて 800 万近くの奨学金の返済があり、月々 5 万円の返済はなかなか苦しいものを感じている。しかし、大学に行かねば就職口もなかった世代であり必要経費だったと思う（25～29 歳）
 - ・大学の授業料が、昔に比べてかなり高くなっていると感じる。親の収入で、子供の進路が狭くならないようにと、プレッシャーを感じている（35～39 歳）
 - ・諸外国のようにしっかりと勉強しないと、卒業できないような制度なら給付型の奨学金もよいと思う。税金を使うのなら、有意義に使ってほしい（40～44 歳）
 - ・給付が無理なら、せめて無利子の奨学金を希望者には皆貸してほしい（50～54 歳）
 - ・借りたお金は返済しなければならないと思う。返済しないと次に借りる人の分がなくなるから。ただ、返済できる収入を得られるかが問題（60～64 歳）
 - ・高校では授業料以外に思いのほかかかり、大学でも入試費用から授業料など高すぎる（55～59 歳）
 - ・奨学金は全て無利子化返済の必要のないものにすべき（30～34 歳）
2. 子どもの教育費用の負担について、「今後の負担感」を年代別に聞いたところ、20～40 歳代で「かなり負担を感じる」「やや負担を感じる」が合わせて 80%を超えた。今後の教育費負担に対する不安が大きいことがわかった【Q15、Q16】
3. 大学進学費用や奨学金をめぐる実情について、「知っている」か「知らない」かを年代別に聞いたところ、多くの項目で、「30～34 歳」「35～39 歳」「40～44 歳」で「知らない」と答えた割合が高くなった。特に、「35～39 歳」において「知らない」と答えた割合が高くなっている。この年代は、就学前～中学生の子どもを育てていると考えられる世代であるが、その年代の回答者が、奨学金をめぐる実情について一番知らない結果になった【Q11】
4. 「(本人が奨学金を) 利用していた」と答えた回答者に月々の貸与額をきいたところ、「3 万円未満」が最も多く 40%となった。一方、「子どもが奨学金を利用している(いた)」と答えた回答者に、子どもの月々の貸与額を聞いたところ、「3～5 万円未満」が最も多く、「3～5 万円未満」「5～8 万円未満」を合わせると半数を超えた【Q13、Q20】

回答者の属性

9月21日～10月23日までに、2,713件の回答をいただき、そのうちの2,675件を有効回答とし、分析を行いました。

● 回答者の性別【Q1】

Q1：回答者の性別

女性	男性
2529(94.5%)	146(5.5%)

● 回答者の年代【Q2】

50代（「50～54歳」、「55～59歳」の合計）が最も多く、40代、60代と続く。

Q2：回答者の年齢

～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳
57(2.1%)	163(6.1%)	211(7.9%)	334(12.5%)	365(13.6%)
50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳～
444(16.6%)	343(12.8%)	371(13.9%)	260(9.7%)	127(4.7%)

● 回答者の年収【Q6】

年収を記載した2,291人の年収を分類すると、「400～600万円未満」が最も多く、「200～400万円未満」、「600～800万円未満」と続く。

Q6：回答者の年収

200万円未満	200～400万円未満	400～600万円未満	600～800万円未満
97(4.2%)	503(22.0%)	603(26.3%)	485(21.2%)
800～1000万円未満	1000～1200万円未満	1200～1400万円未満	1,400万円以上
315(13.7%)	168(7.3%)	58(2.5%)	62(2.7%)

● 回答者の子どもの人数【Q4】

子どもが「いる」と回答したのは、回答者のうち90%を超えた。

Q4：子どもの有無と人数

いる/1人	いる/2人	いる/3人	いる/4人以上	いない
558(20.9%)	1302(48.7%)	497(18.6%)	72(2.7%)	246(9.2%)

● お住まい【Q3】

Q3：都道府県別 有効回答数（件）

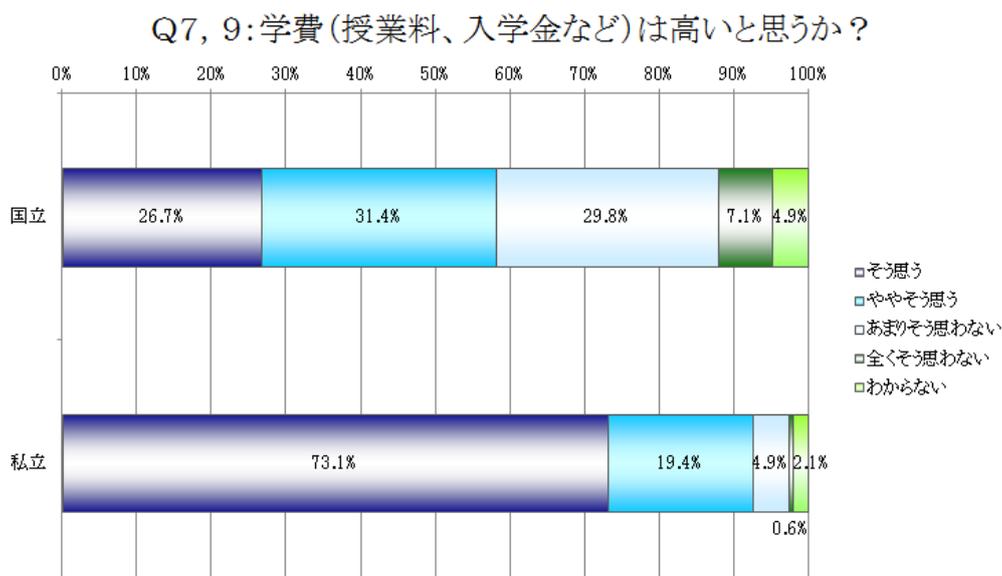
北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県
153	24	42	138	14	22	16	42
栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県
30	23	116	99	204	155	19	18
石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県
27	11	16	44	36	63	61	38
滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県
20	55	322	327	23	9	6	14
岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県
34	47	25	12	13	37	16	180
佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	合計
16	18	21	29	0	34	6	2675

調査結果

1. 大学の学費に関する意識

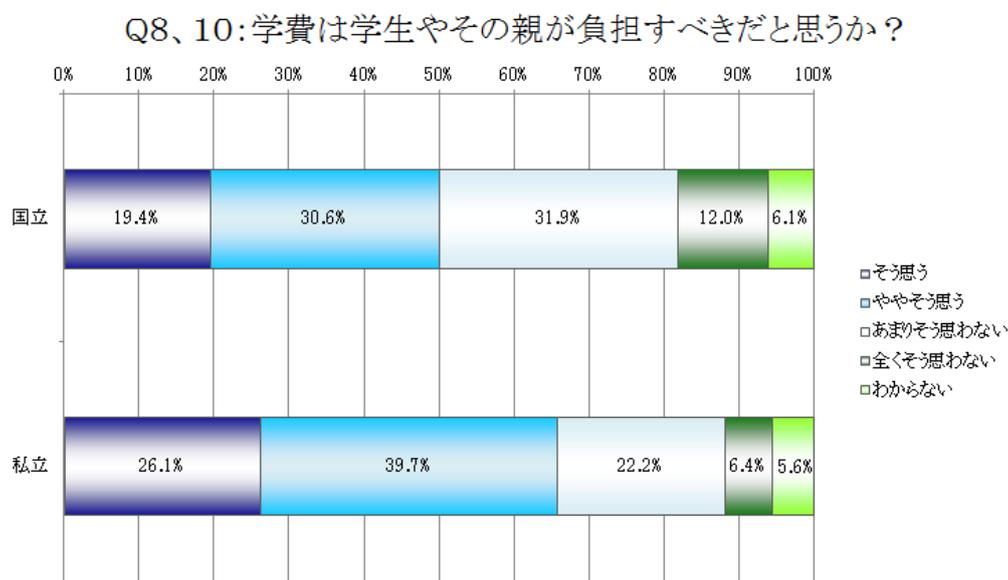
(1) 学費（授業料、入学金など）の高さの意識【Q7、Q9】

大学の学費（授業料、入学金など）の高さに関する意識について、「高いと思う（そう思う）」と回答した人は、国立大学の26.7%に対し私立大学は73.1%と多く、国公立大学と私立大学に対して大きく異なる認識となった。



(2) 学費（授業料、入学金など）の負担の意識【Q8、Q10】

大学の学費（授業料、入学金など）の負担は、国や自治体ではなく学生やその親が負担すべきかとの間に対し、国立大学は「そう思う」「ややそう思う」をあわせると50%、私立大学は66%と、私立大学の方が自己負担の意識が高くなっていた。

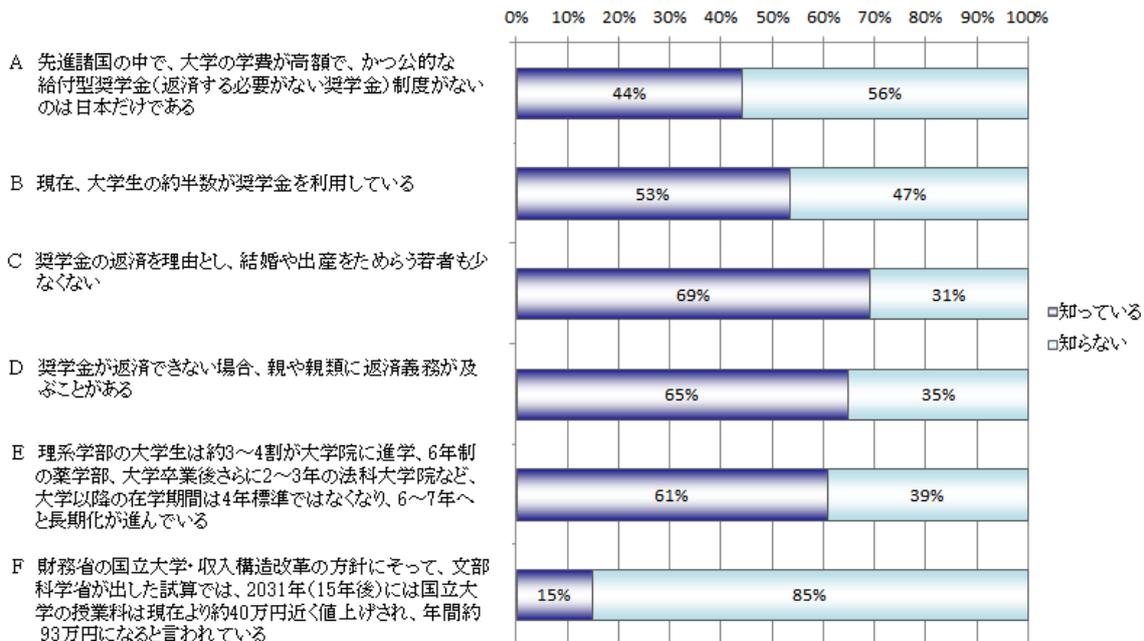


2. 奨学金に関する意識

(1) 奨学金に関する情報の認知【Q11】

奨学金に関連し、以下A～Fの内容を知っているか聞いたところ、F「国の試算では国立大学の授業料が15年後に40万円近く値上げされること」について「知らない」が85%と、ほとんど知られていなかった。また、A「先進諸国の中で公的な給付型奨学金がないのは日本だけ」についても「知らない」が56%と半数を超えていた。その他の項目についても「知らない」が3～4割あった。

Q11:奨学金のA～Fについて知っているか？



(2) 奨学金に関する情報の認知(年代別)【Q11】

奨学金に関連したA～Fの認知を年代別にみると、各項目とも30～40代前半が「知らない」と回答する割合が多い傾向にあった。

Q11:奨学金に関連した情報について、「知らない」と答えた割合(年代別)

	～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳～
A 先進諸国の中で、大学の学費が高額で、かつ公的な給付型奨学金(返済する必要がない奨学金)制度がないのは日本だけである	52.6%	62.6%	66.8%	59.6%	57.8%	54.3%	51.6%	56.9%	49.6%	45.7%
B 現在、大学生の約半数が奨学金を利用している	26.3%	54.6%	65.9%	56.3%	41.1%	34.9%	39.4%	45.6%	55.8%	47.2%
C 奨学金の返済を理由とし、結婚や出産をためらう若者も少なくない	22.8%	30.1%	42.2%	35.0%	29.0%	25.2%	27.7%	29.1%	36.2%	38.6%
D 奨学金が返済できない場合、親や親類に返済義務が及ぶことがある	33.3%	39.9%	38.9%	40.4%	32.9%	28.4%	31.2%	35.6%	39.2%	43.3%
E 理系学部の大学生は約3～4割が大学院に進学、6年制の薬学部、大学卒業後さらに2～3年の法科大学院など、大学以降の在学期間は4年標準ではなくなり、6～7年へと長期化が進んでいる	38.6%	49.7%	57.8%	49.1%	40.5%	29.5%	29.2%	34.0%	41.2%	39.4%
F 財務省の国立大学・収入構造改革の方針にそって、文部科学省が出した試算では、2031年(15年後)には国立大学の授業料は現在より約40万円近く値上げされ、年間約93万円になると言われている	75.4%	89.0%	91.0%	85.9%	86.8%	82.7%	84.0%	84.9%	87.7%	78.0%

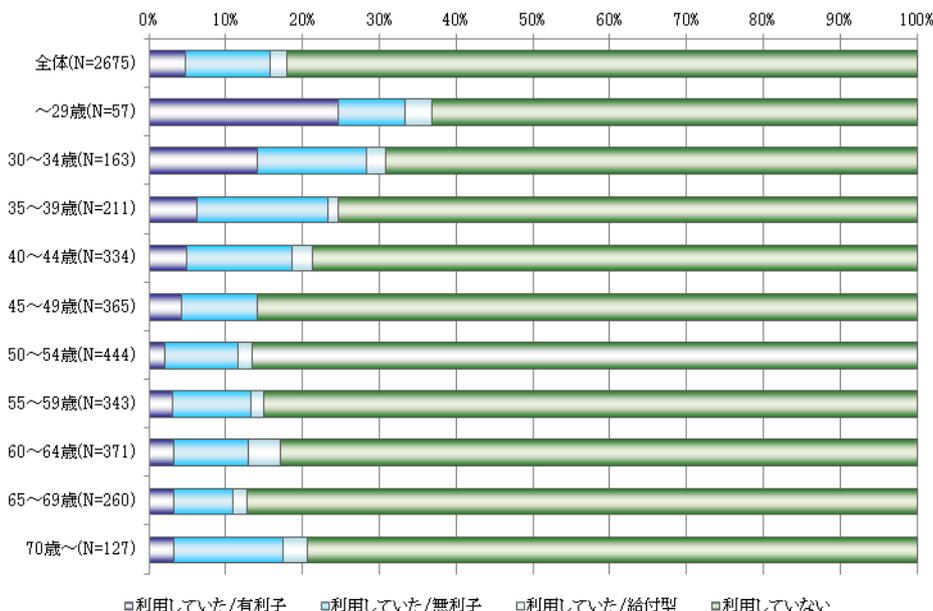
(※) [青色] : 項目の中で最も割合が高かった年代、[水色] : 項目の中で2番目に割合が高かった年代

3. 親本人（回答者）の奨学金

（1）親本人（回答者）の奨学金の利用（年代別）【Q12】

親本人（回答者）の奨学金の利用状況をみると、全体で18%が奨学金制度を利用していた。年代別にみると、34歳までの利用者は3割を超えている一方、45～69歳の利用者は2割おらず、年代によって大きく差があった。また、年代が若いほど有利子貸与型奨学金の利用が多い傾向にあった。

Q12:あなたは学生時代に奨学金を利用していましたか？

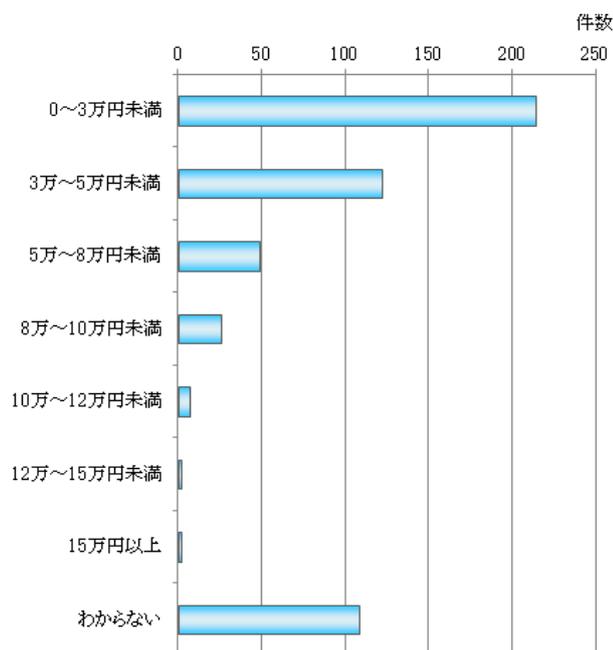


（2）親本人（回答者）の毎月の貸与額と返還額【Q13、Q14】

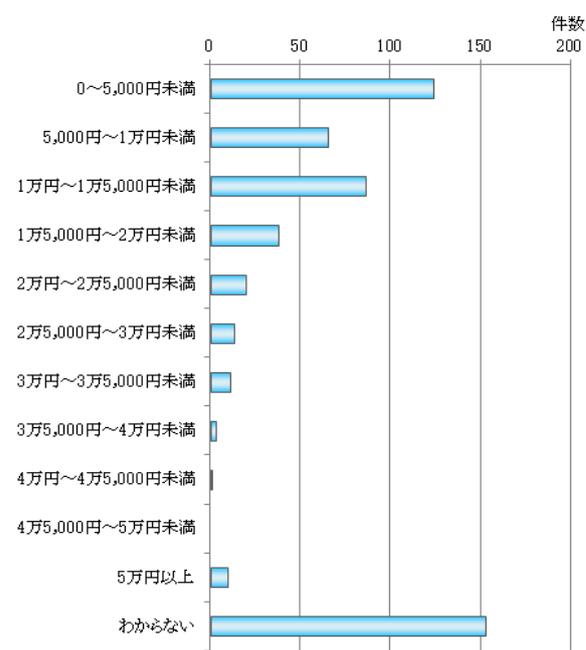
親本人（回答者）の毎月の貸与額は、3万円未満が最も多く、貸与額が上がるほど利用者は少なくなっていた。

親本人（回答者）の毎月の返済額は、5000円未満が最も多く、1万～1万5000円が次いで多くなっていた。

Q13:毎月の貸与額



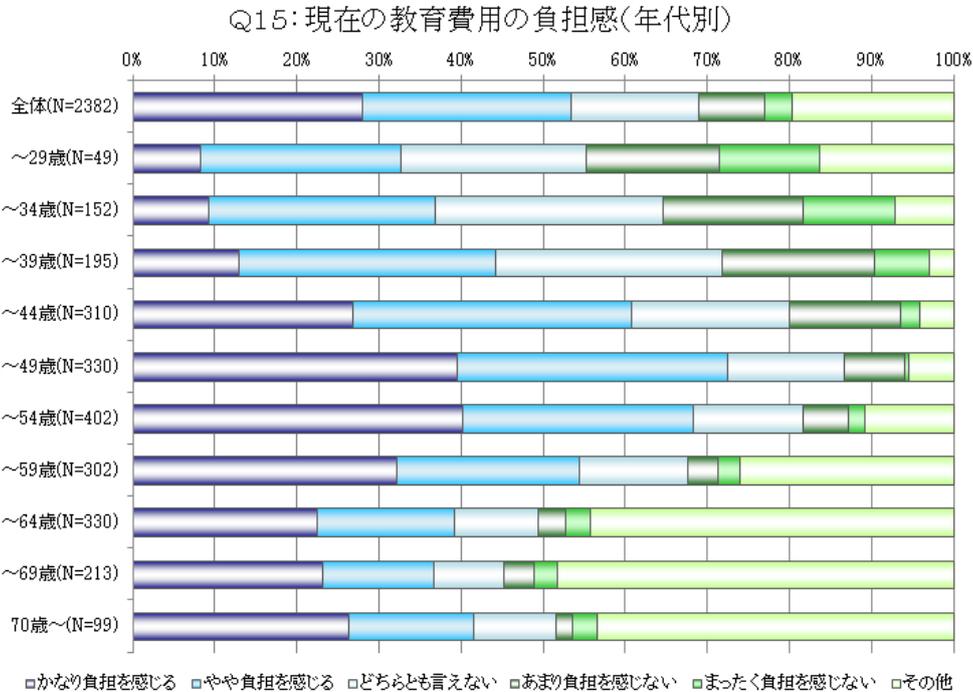
Q14:毎月の返済額



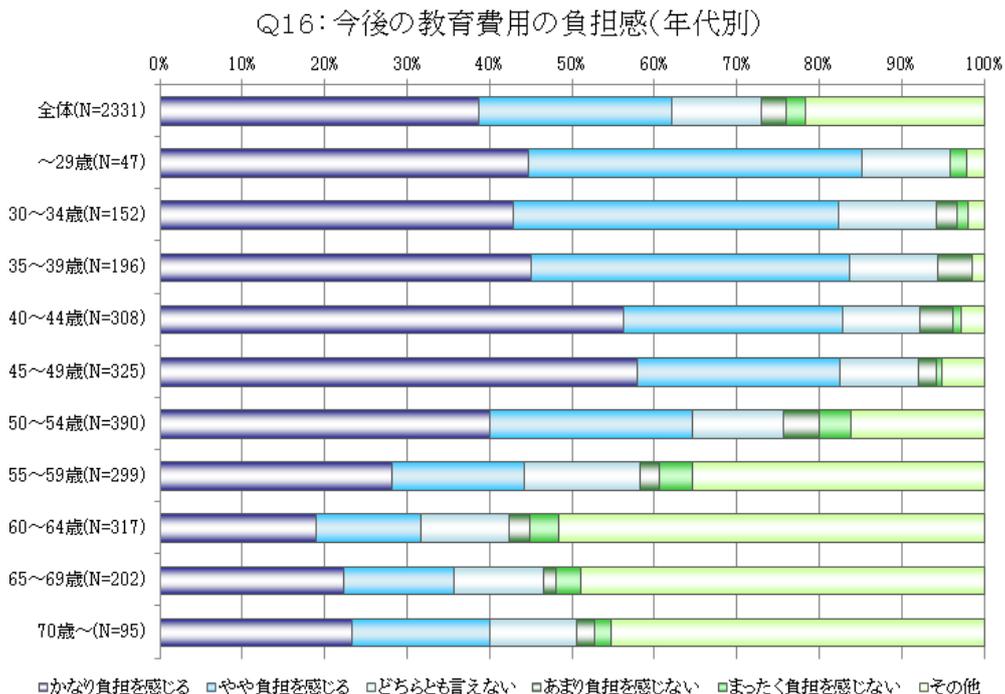
4. 子どもの教育費に関する意識

(1) 子どもの教育費用の負担感 現在と今後（年代別）【Q15、Q16】

現在の子どもの教育費用の負担感を年代別にみると、40～50歳代の多くが負担を感じている傾向にあった。とくに、45～49歳では「かなり負担を感じる」「やや負担を感じる」をあわせると、7割を超える人が不安を感じていた。

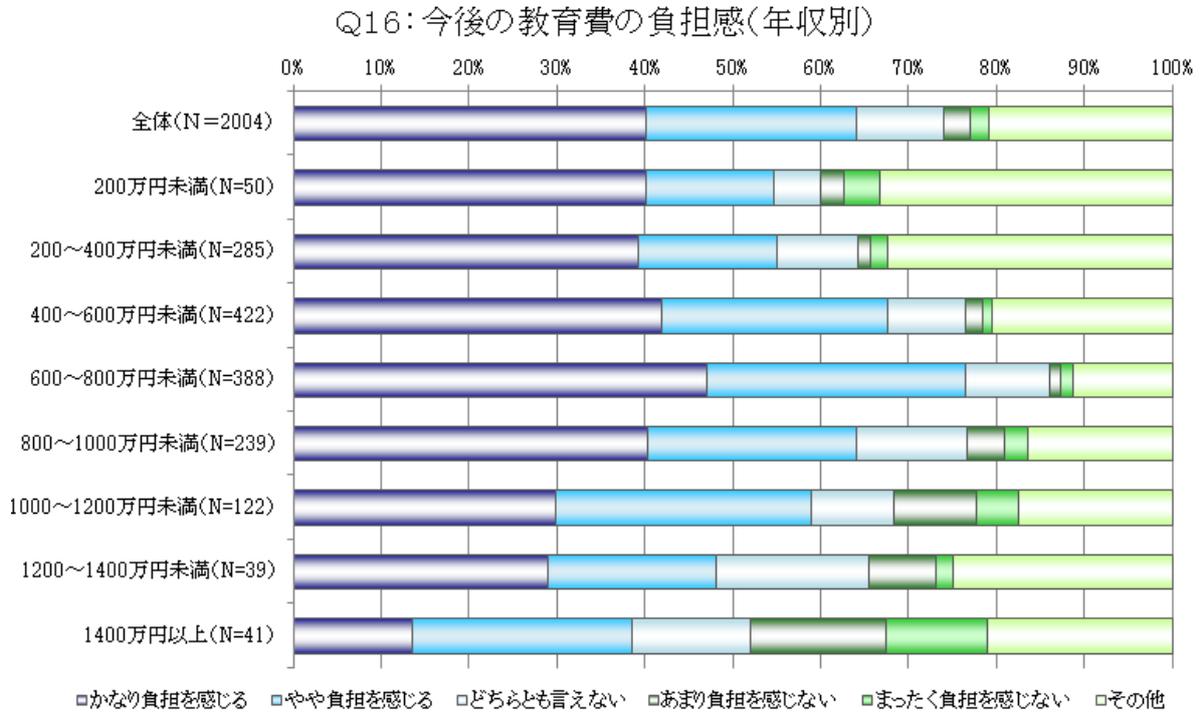


今後の子どもの教育費用の負担感を年代別にみると、20～40歳代は、「かなり負担を感じる」「やや負担を感じる」をあわせると8割を超えており、「かなり負担を感じる」だけでも4割を超えていた。現在の負担感と将来の負担感では、大きな差がみられた。



（２）子どもの教育費用の負担感の今後（年収別）【Q16】

今後の子どもの教育費用の負担感を年収別にみると、1000万円未満では「かなり負担を感じる」が約４割となっている。とくに、600～800万円未満での負担感が最も高かった。1000万円以上になると、負担を感じる人が段階的に少なくなっていた。



（３）将来の子どもの教育費（年収別）【Q17】

将来の子どもの教育費に対する考え方を年収別にみると、年収400万円以上では、「進学費用の貯蓄をしておく」を選択する回答の割合が多かった。一方で、年収が400万円未満だと、「奨学金を利用する」が多くなっていた。また、1000万円を超えると「月々の収入でやりくりする」と回答する割合が増加する傾向にあった。

Q17: 将来の子どもの教育費について、どうまかなうか
(年収別、当てはまるもの2つまで)

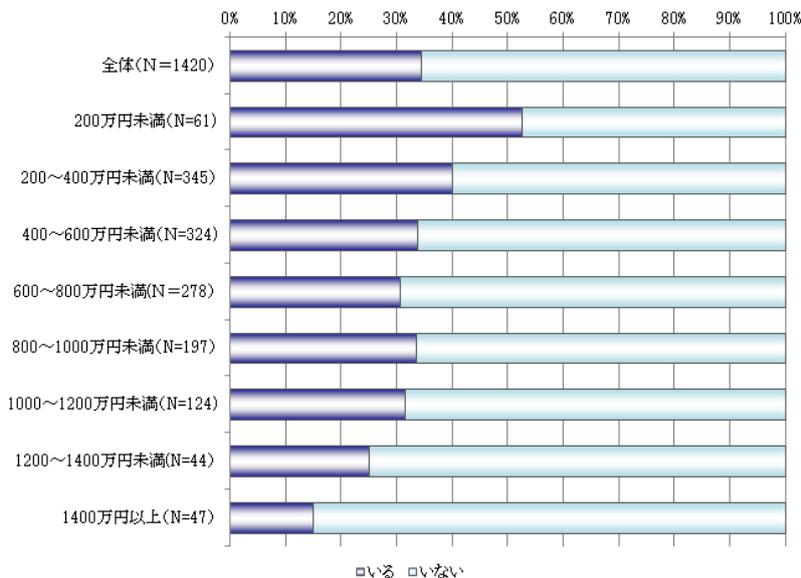
	月々の収入でやりくりする	奨学金を利用する	教育ローンを借りる	学資保険などに加入する	進学費用の貯蓄をしておく	親・親族の援助を受ける	その他	まだ考えていない
200万円未満(N=30)	20.0%	30.0%	0.0%	16.7%	20.0%	0.0%	3.3%	10.0%
200～400万円未満(N=248)	17.7%	23.4%	4.0%	19.0%	20.6%	5.6%	4.4%	5.2%
400～600万円未満(N=474)	20.9%	15.8%	2.3%	24.9%	29.1%	1.9%	1.7%	3.4%
600～800万円未満(N=403)	23.3%	14.4%	2.5%	21.6%	32.8%	1.5%	1.0%	3.0%
800～1000万円未満(N=234)	23.9%	13.7%	0.4%	23.1%	35.0%	1.7%	0.9%	1.3%
1000～1200万円未満(N=82)	36.6%	6.1%	1.2%	17.1%	34.1%	3.7%	0.0%	1.2%
1200～1400万円未満(N=22)	27.3%	0.0%	0.0%	18.2%	45.5%	4.5%	4.5%	0.0%
1400万円以上(N=24)	37.5%	4.2%	0.0%	20.8%	33.3%	0.0%	4.2%	0.0%

5. 子どもの奨学金の状況

(1) 奨学金の利用（年収別）【Q18】

子どもの奨学金の利用状況は、全体で約3分の1となっていた。年収別にみると、年収が低いほど利用する割合は増加傾向にあり、200万円未満では半数を超えて利用されていた。一方で、1200万円以上では3割を下回っていた。

Q18: 奨学金を利用する子どもの有無(年収別)

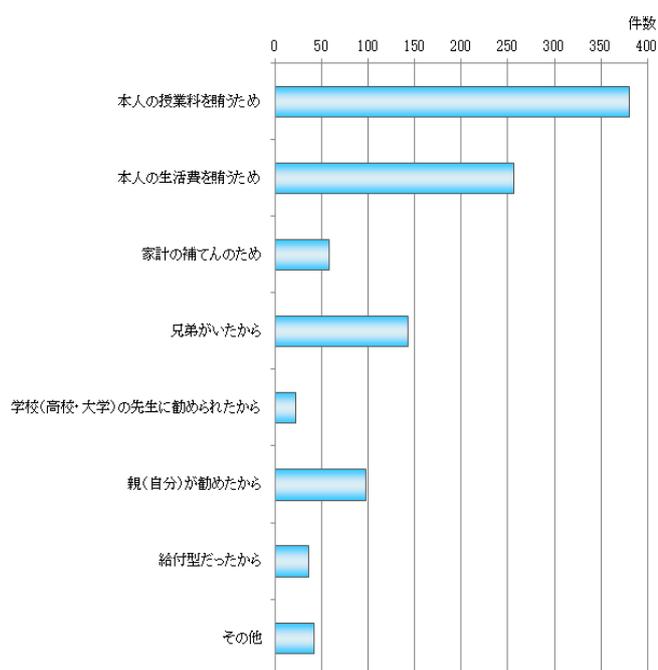


(2) 奨学金を借りた理由と毎月の貸与額【Q19、Q20】

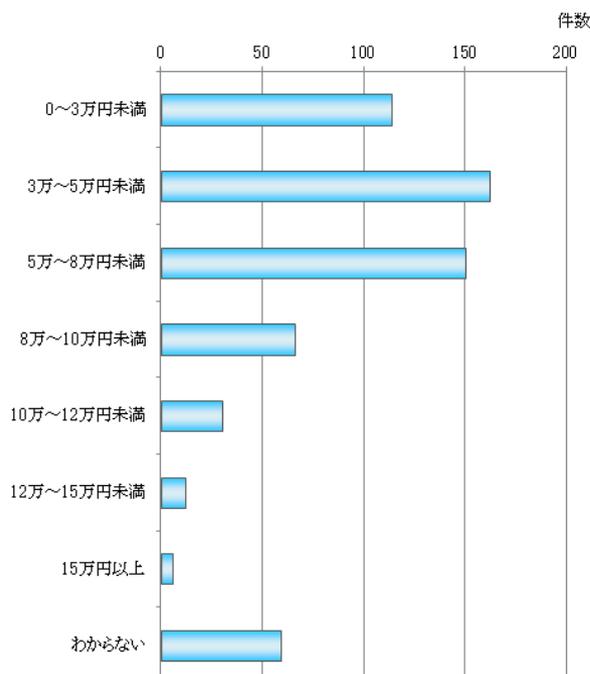
子どもが奨学金を借りた理由は、「本人の授業料を賄うため」が最も多く、「本人の生活費を賄うため」が2番目に多かった。

子どもの毎月の奨学金の貸与額は、「3万~5万円未満」が最も多く、「5万~8万円未満」が2番目に多かった。少数ではあるが、「15万円以上」借りている人もいた。

Q19: 奨学金を借りた理由



Q20: 毎月の貸与額



6. 自由記入「奨学金制度などへのご意見・お考え」【Q21】

回答者 2,675 人のうち、自由記入欄には 1,433 人 (53.6%) の方が何らかのご意見・お考えを記入されていました。こうした調査で、これだけ多くの方が自由記入欄に記入をされるのは、きわめてまれなことで、関心の高さが伺えます。ここでは、特徴的な声をご紹介します。

【借りたものは返すべきだが】

- ・借りた物は返すのが当たり前だけど、そもそもの学費がもっと安くなればとてもありがたい。
- ・お金がなくて進学をあきらめざるを得ない子どもがいることは承知しているが、安易に奨学金を借りるべきではないと思う。借金であり返済義務があるのことを充分理解したうえで借りるべき。
- ・借りた物は返すのが当然です。でも色々な理由で返せなくて、それどころか返すのに必死で、その人の素晴らしい才能まで奪ってしまうことは、この国の財産をなくすことと同じなのではと思います。学びたいと思う気持ちを奪わない様な、そんな奨学金制度になって欲しいです。
- ・借りたお金は返済しなければならないと思う。返済しないと次に借りる人の分がなくなるから。ただ、返済できる収入を得られるかが問題。
- ・現在、夫婦で合わせて 800 万近くの奨学金の返済があり、月々 5 万円の返済はなかなか苦しいものを感じている。しかし、大学に行かねば就職口もなかった世代であり必要経費だったと思う。

【高い学費・授業料】

- ・学費が高いのが問題だと思う。
- ・大学の授業料が、昔に比べて かなり高くなっていると感じる。親の収入で、子供の進路が狭くならないようにと、プレッシャーを感じている。
- ・高校では授業料以外に思いのほかかかり、大学でも入試費用から授業料など高すぎる。
- ・授業料が高額なので奨学金の貸与額が高額になり、子ども本人が返却するのは負担が大きすぎる。奨学金を借りないで親が授業料を負担するのも家計を圧迫し、親の老後資金を危うくしてしまう。

【給付型奨学金への要望】

- ・親の収入要件を厳格にした上で、本当に勉強をしたいけれど経済的に困難な人には、給付型奨学金等の手を差しのべてあげる施策も必要だと思う。
- ・諸外国のようにしっかりと勉強しないと、卒業できないような制度なら給付型の奨学金もよいと思う。税金を使うのなら、有意義に使ってほしい。
- ・優秀かつ経済的に困難な場合、給付型の奨学金を公的にご検討いただきたい。
- ・教育は世の中全ての人のためになります。国が教育にもっと力を入れて、教育を受けたい人が幾つになっても、いつでも教育を受けられるようにして欲しいと思います。その為の給付型の奨学金を望みます。

【無利子奨学金への要望】

- ・奨学金は全て無利子か返済の必要のないものにすべき。
- ・給付が無理なら、せめて無利子の奨学金を希望者には皆貸してほしい。
- ・家庭状況に応じた奨学金額の貸与と無利子の長期返済等を無理なく組み込んではどうでしょうか。

「教育費や奨学金制度に関するアンケート」調査票

教育費や奨学金制度に関するアンケート

近年、世帯年収が減少傾向にある一方で、子どもにかかる教育費は増加傾向にあります。お子さんがいらっしゃるご家庭では、子どもの教育費に頭を悩ませている方も多いのではないのでしょうか。

また最近、大学などへの進学・在学時に利用する奨学金をめぐる、返済が難しいため自己破産する、奨学金の返済があるために結婚をためらうなど、社会的な問題になっています。

生協（コープ）では、組合員の皆さんが普段、お子さんの教育費に関して感じていることや、奨学金に関して思うこと、奨学金がどれほど利用されているのか、その実態を明らかにするために、「教育費や奨学金制度に関するアンケート」を実施することになりました。

このアンケートは、日本生協連で集計し、結果を社会的に公表して、奨学金制度改善の取り組みに役立たせていただきます。

下の「回答する」のボタンを押して、アンケートへの回答をお願いします。

質問は最大で21問、ご回答の目安時間は約15分です。
回答期間は、11月30日（水）までです。

みなさまのご協力をお願いします。

（日本生活協同組合連合会の情報セキュリティと個人情報保護については[こちら](#)）

回答する

Copyright 日本生活協同組合連合会 All right reserved.

教育費や奨学金制度に関するアンケート

必要事項をご入力の上、「確認画面へ」ボタンを押してください。

みなさんご回答ください

Q1. 性別を教えてください

必須

▽ 選択してください

1. 女性 2. 男性

Q2. あなたの年代を教えてください

必須

▽ 選択してください

1. 24歳以下 2. 25歳～29歳 3. 30歳～34歳
4. 35歳～39歳 5. 40歳～44歳 6. 45歳～49歳
7. 50歳～54歳 8. 55歳～59歳 9. 60歳～64歳
10. 65歳～69歳 11. 70歳～74歳 12. 75歳以

Q3. お住まいの都道府県を教えてください

必須

▽ 選択してください

Q4. 子どもの有無と人数を教えてください

必須

▽ 選択してください

1. いる／1人 2. いる／2人 3. いる／3人
4. いる／4人以上 5. いない

Q4で「いる」を選択した方はご回答ください。「いない」を選択した方はQ6に進んでください

Q5. あなたの一番上のお子さんの学年を教えてください

▽ 選択してください

1. 就学前
2. 小学生
3. 中学生
4. 高校生/高専生
5. 短大生/専門学校生/大学生/大学院生
6. 社会人
7. その他

Q6. 世帯全体でどのくらいの年収（税込）がありますか。

必須

▽ 選択してください

1. 200万円未満
2. 200～400万円未満
3. 400～600万円未満
4. 600～800万円未満
5. 800～1000万円未満
6. 1000～1200万円未満
7. 1200～1400万円未満
8. 1400万円以上
9. 答えたくない

ここからは、教育費や奨学金制度についておうかがいします。

※国立大学（標準）の年間授業料は53万5800円、入学金は28万2,000円です。
私立大学文系（平均）の年間授業料は74万6,123円、入学金は24万2,579円です。
私立大学理系（平均）の年間授業料は104万8,763円、入学金は26万2,436円です。

Q7. 国公立大学の学費（授業料、入学金など）は高いと思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。

必須

▽ 選択してください

1. そう思う
2. ややそう思う
3. あまりそう思わない
4. 全くそう思わない
5. わからない

Q8. 国公立大学の学費は、国や自治体ではなく、学生やその親が負担すべきだと思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。

必須

▽ 選択してください

1. そう思う
2. ややそう思う
3. あまりそう思わない
4. 全くそう思わない
5. わからない

Q9. 私立大学の学費（授業料、入学金など）は高いと思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。

必須

▽ 選択してください

1. そう思う
2. ややそう思う
3. あまりそう思わない
4. 全くそう思わない
5. わからない

Q10. 私立大学の学費は、国や自治体ではなく、学生やその親が負担すべきだと思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。

必須

▽ 選択してください

1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない
4. 全くそう思わない 5. わからない

Q11. 現在、奨学金に関連して以下のことが指摘されています。ご存じでしたか。

必須

	知っている	知らない
A 先進諸国の中で、大学の学費が高額で、かつ公的な給付型奨学金（返済する必要がない奨学金）制度がないのは日本だけである	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
B 現在、大学生の約半数が奨学金を利用している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
C 奨学金の返済を理由とし、結婚や出産をためらう若者も少なくない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
D 奨学金が返済できない場合、親や親類に返済義務が及ぶことがある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
E 理系学部的大学生は約3～4割が大学院に進学、6年制の薬学部、大学卒業後さらに2～3年の法科大学院など、大学以降の在学期間は4年標準ではなく、6～7年へと長期化が進んでいる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
F 財務省の国立大学・収入構造改革の方針にそって、文部科学省が出した試算では、2031年（15年後）には国立大学の授業料は現在より約40万円近く値上げされ、年間約93万円になると言われている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q12. あなたは、学生時代に奨学金を利用していましたか。

必須

▽ 選択してください

1. 利用していた／有利子 2. 利用していた／無利子
3. 利用していた／給付型 4. 利用していない

Q12で「利用していた」と回答した方はご回答ください。「利用していない」を回答した方は、Q15へ進んでください

Q13. 毎月の貸与額はどの程度でしたか。

▽ 選択してください

1. 0～3万円未満 2. 3万～5万円未満 3. 5万～8万円未満
4. 8万～10万円未満 5. 10万～12万円未満 6. 12万～15万円未満
7. 15万円以上 8. わからない

Q14. 毎月の返還額はどの程度でしたか

▽ 選択してください

1. 0円～5,000円未満 2. 5,000円～1万円未満 3. 1万円～1万5,000円未満
4. 1万5,000円～2万円未満 5. 2万円～2万5,000円未満
6. 2万5,000円～3万円未満 7. 3万円～3万5,000円未満
8. 3万5,000円～4万円未満 9. 4万円～4万5,000円未満
10. 4万5,000円～5万円未満 11. 5万円以上 12. わからない

お子さんがいる方はご回答ください。いらっしゃらない場合は、Q 2 1に進んでください

Q 1 5. 現在のお子さんの教育費用の負担をどのように感じますか。あてはまるものを1つ選んでください。

▽ 選択してください

1. かなり負担を感じる
2. やや負担を感じる
3. どちらともいえない
4. あまり負担を感じない
5. まったく負担を感じない
6. その他

Q 1 6. 今後のお子さんの教育費用の負担をどのように感じますか。あてはまるものを1つ選んでください。

▽ 選択してください

1. かなり負担を感じる
2. やや負担を感じる
3. どちらともいえない
4. あまり負担を感じない
5. まったく負担を感じない
6. その他

中学生以下のお子さんがある方はご回答ください。いらっしゃらない場合は、Q 1 8に進んでください

Q 1 7. 将来、お子さんが進学する場合の教育費について、どのように考えていますか。主に考えているものを2つ以内で選んでください。

- 月々の収入でやりくりする
- 奨学金を利用する
- 教育ローンを借りる
- 学資保険などに加入する
- 進学費用の貯蓄をしておく
- 親・親族の援助を受ける
- その他
- まだ考えていない

大学や大学院に通う（通っていた）お子さんがいる方はご回答ください。いらっしゃらない場合は、Q 2 1に進んでください

Q 1 8. あなたのお子さんのうち、奨学金を利用している（していた）お子さんはいますか。

▽ 選択してください

1. いる
2. いない

Q18で「いる」と回答した方はご回答ください。「いない」を回答した方はQ21へ進んでください

Q19. お子さんが奨学金を借りた理由は、以下のどれですか。以下の中から、主なものを3つ以内で選んでください。

- 本人の授業料を賄うため
- 本人の生活費を賄うため
- 家計の補てんのため
- 兄弟がいたから
- 学校（高校・大学）の先生に勧められたから
- 親（自分）が勧めたから
- 給付型だったから
- その他

Q20. 毎月の貸与額はどの程度ですか（でしたか）。複数のお子さんが借りていた場合は、高い方の金額を教えてください。

▽ 選択してください

- 1. 0～3万円未満
- 2. 3万～5万円未満
- 3. 5万～8万円未満
- 4. 8万～10万円未満
- 5. 10万～12万円未満
- 6. 12万～15万円未満
- 7. 15万円以上
- 8. わからない

Q21. 奨学金制度などに対して、ご意見やお考えなどがありましたら、自由にお書き下さい

確認画面へ

Copyright 日本生活協同組合連合会 All right reserved.